

～患者さん向け～

●みやぎがん患者・家族の集い

がんフォーラム

「がんになっても自分らしくあり続けるために語り合う・考える」

第一部 講演『がんとともに生きる』

講師 樋野 興夫先生（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）

第二部 グループワーク テーマ『病に向き合う...私の場合...』

日時：平成24年11月4日（日）13:00～16:00

場所：仙台市シルバーセンター 7F 第一研修室



～医療者向け～

●ワークショップ

厚生労働省平成24年度チーム医療普及推進事業

テーマ「みんなで手をつなごう！～患者さんを取り巻く仲間たち～」

第1回 仙台市

日時：平成24年12月15日（土）14:30～18:00

場所：TKPガーデンシティ仙台

第2回 石巻市

日時：平成25年1月26日（土）14:30～18:00

場所：石巻グランドホテル

第3回 大崎市

日時：平成25年2月23日（土）14:30～18:00

場所：芙蓉閣



●講演会

今後、栗原市と登米市にて4回に渡り講演会を開催する予定です。

第1回目のテーマ「緩和医療」

栗原市

講師 今野文博先生（大崎市民病院外科）

宮下光令先生（東北大学大学院医学系研究科教授）

日時：平成25年2月7日（木）18:30～

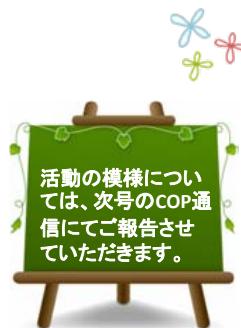
場所：エポカ21

登米市

講師 日下潔先生（石巻赤十字病院緩和医療科）

日時：平成25年3月8日（金）18:30～

場所：ホテルニューグランヴィア



がん医療の充実を目指し活動に取り組んでまいります。今後ともどうかご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

推進室一同

【発行元】

東北大学病院がんセンター

先進包括的がん医療推進室

〒980-8574

宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号

Tel:022-717-8885

E-mail:cancercenter@hosp.tohoku.ac.jp



室長のご挨拶



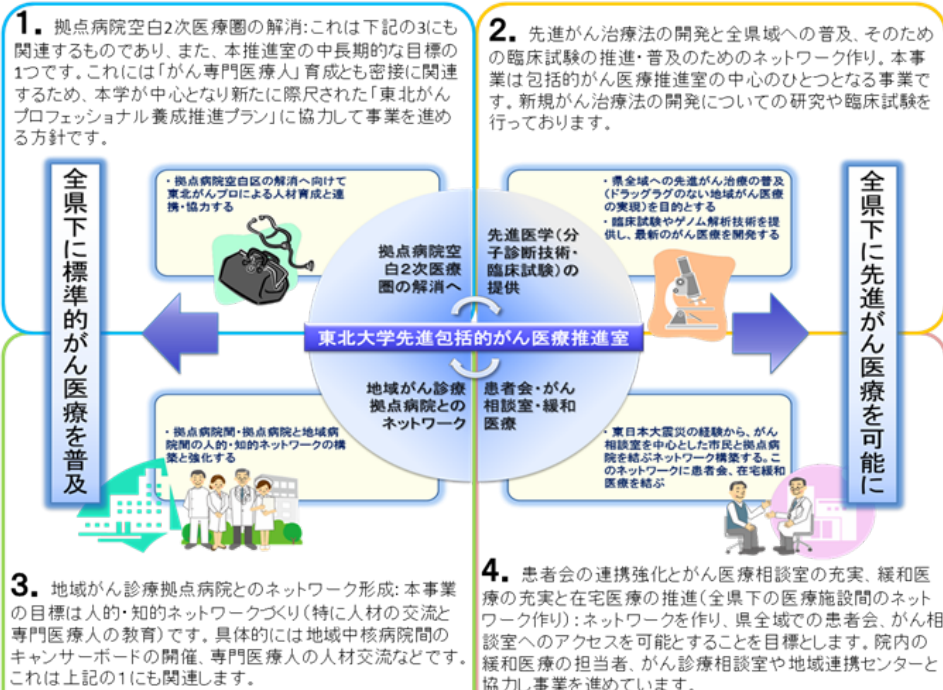
先進包括的がん医療推進室

室長 森 隆弘

このたび東北大学病院（がんセンター）に先進包括的がん医療推進室が設立されました。本推進室を東北大学病院に設置することで、臨床試験や遺伝子診断などの最新の診断技術の提供、患者会・がん相談・緩和医療・在宅医療のネットワークの体制を全県下に整備することを目的としています。これは厚生労働省補助金による宮城県の地域医療再生計画による事業です。

以下のように、本推進室の事業には「がん診療」に関連する臨床科や基礎研究分野のみならず、東北がんブローフェッショナル養成推進プラン、地域医療連携センター、がん診療相談室などと有機的に連携し事業を進める必要があります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

治療法の相談から緩和医療まで「切れ目の無い」がん医療を全県下に



推進室の役割

1. 拠点病院空白2次医療圏の解消へ

がんに関わる専門医療職の育成に関しては、東北がんプロフェッショナル養成推進プランと連携協力します。専門医療職を育成し充実させることにより、全県下に標準的がん医療を普及することを目指します。

2. 先進医学(分子診断技術・臨床試験)の提供

先進がん治療法の開発と全県域への普及、そのための臨床試験の推進・普及のためのネットワーク作りを行います。

3. 地域がん診療拠点病院とのネットワーク形成

地域がん診療拠点病院とのネットワーク形成

宮城県は7つの二次医療圏(気仙沼、登米、栗原、石巻、大崎、仙台、仙南)に分かれており、がん診療拠点病院(以下拠点病院)が7つ指定されています。これらの拠点病院のうち5病院は仙台医療圏に、残りは石巻医療圏、大崎医療圏にそれぞれ1病院ずつとその配置には偏りがあります。その他4つの2次医療圏(気仙沼、登米、栗原、仙南)には拠点病院がありません。これらの拠点病院空白2次医療圏と、拠点病院とのネットワークを強化することで、空白2次医療圏の患者さんにも拠点病院で行われている専門的がん医療を受けやすくすることを目指しています。



地域中核病院間のカンサーボードの開催

カンサーボードとは、内科、外科、放射線科、臨床腫瘍医、病理診断医など立場の異なる専門職種が集まり、一人のがん患者さんに対して最も適切な治療方針について意見を交換し、検討する会議です。カンサーボードの定期的開催は拠点病院の指定要件となっています。しかし、すべての地域中核病院にすべての専門家が常駐しているわけではありません。そこで、拠点病院とのオンラインのネットワーク構築などの方法を用いて、地域中核病院でも他職種で検討することが出来るようなカンサーボードのシステムを整備します。

専門医療人の人材交流

勉強会の開催、人材派遣などを積極的に支援し拠点病院と中核病院間の人材交流を促進させます。これにより、拠点病院における専門的がん医療の知識を地域中核病院に伝搬します。患者会、がん相談、在宅緩和医療などの担当者とも交流を行い、がん患者を多目的に支援するための連携を構築します。

4. 患者会との連携強化とがん医療相談室の充実、緩和医療の充実と在宅医療の推進

患者会支援

患者様同士が互いの悩みを共有し、支え合うことのできる患者会を後押しします
・宮城県内の患者会の情報提供
・患者会立ち上げ・運営・継続支援
・宮城県患者・家族の集いの実施

がん相談室

患者様の相談を担うがん相談室と専門職スタッフを応援します
・宮城県内のがん相談室の情報提供
・県内のがん相談支援センターや地域連携センター等との連携

緩和ケア

からだやこころの苦痛をやわらげる緩和ケアの提供を支援します
・宮城県内の緩和ケアの情報提供
・地域緩和ケアネットワーク未整備地域への支援
・緩和ケアにかかわる専門職スタッフ支援

連載企画!

おしえて

臨床試験でなんだろう??

第1回 臨床研究の枠組み

がんセンター 臨床研究コーディネーター 小幡 泉

先進包括的がん医療推進室の目的のひとつに「臨床試験の推進」がありますが、そもそも「臨床試験」について、皆さんはご存知でしょうか? 分かるような分からないような...という方が多いのではないのでしょうか。ここでは臨床試験についての説明を連載していきますので、少しでも興味を持てただけなら嬉しいです。今回は臨床試験を含む臨床研究の枠組みについて説明したいと思います。臨床研究の大きな枠の中に臨床試験、さらにその中に治験が含まれています(図参照)。それぞれの内容とその一例を書いてみました。

臨床研究: 人を対象とする医学研究で、範囲が広いです。

【例】手術で摘出された腫瘍の一部を患者さんから提供していただき、腫瘍の特徴(遺伝子変異など)や薬剤感受性等を調べます。

臨床試験: 治療を兼ねた研究を言います。ただ、人によっては通常の診療を超えた医療行為をする場合に臨床試験とする見解もあり、まだ範囲があやふやなところがあります。

【例】治療法Aと治療法Bに患者さんを振り分け、どちらの療法が優れているか、治療成績・安全性を比較検討する。

治験: 厚生労働省の承認を得るために行われる試験。

主に企業が病院に依頼して行っていますが、最近では医師主導で行われている医師主導治験もあります。

【例】開発中の新薬を患者さんに投与し、治療成績・安全性を検討する。

また治験を含まず、医師が行う臨床試験を「医師(研究者)主導臨床試験」と言い、私はこの領域で化学療法の試験に関わっています。がん分野では他にも手術療法、放射線療法、ワクチン療法など、様々な医師主導臨床試験が行われています。

引き続き、次号では臨床試験の意義について説明する予定ですが、今回の説明でご質問などがありましたらお知らせください。次号でお答えいたします。



一患者として切実に感じたこと

がん患者は老若男女、特に若い患者については、外見で病気であることが分からないと思います。体はしんどく、バスに乗る時には座りたいと思いますが、優先席は気が引けます。混み合ったバスでは、優先席が空いていても、「見た目が普通の自分が座ってもいいの?」お年寄りが乗ってくるのではないかと、優先席以外の席を狙っていました。特に抗癌剤治療をした後などは疲れます。公共交通機関での移動では体もしんどいし、怖いので妹に車で送ってもらうようになりました。病院周辺はたいへん混み合っており、駐車場もいっぱいになるので、送ってもらった後は1人で外来で抗癌剤治療を受けていました。「座りたい。けど優先席は気が引ける。一休みしたい。」そんな時、意思表示マークがあれば良いと65歳の私でさえ思いますので若い方はなおさらのことと思います。新聞で見たピンクリボンのようなものや、身体

～COP通信はがん患者さんの心の声をお届けいたします～

仙台市 堀内宏子 さん



障害者の車椅子マークのようなマークがあれば、それを身につけて気軽に腰をかせさせて頂けたら、公共交通機関も使いやすくなり、通院にも助かると思いました。

スーパー等の外出先にも椅子が少ないのも困る時があります。もう少し休憩スペースがあればいいのに、カフェテリアの空いている椅子を使っているのか迷うことがあります。いすの一席でも弱者のために用意されていればいいと思います。また、街中でどのような場所に休憩スペースがあるか等、市町村や区毎にマップを作って配布してもらえれば、病気になったことで制限を受けることなく外出できるようになるのではないのでしょうか。もっと情報が欲しいです。

席の譲りあいを通じて、少しずつ優しい心が広まればと思います。

